



地域包括支援センターの活動紹介

千葉県あんしんケアセンター小仲台の取り組み事例

日本は現在、少子高齢化や核家族の進行、人口減少など、地域社会を取り巻く環境の変化により、人々の抱える生活の困りごとは多様化・複雑化しています。

生活クラブ風の村では、その人々が抱える生活の困りごとに寄り添っていけるように様々な事業を提供し、お応えできるように取り組んでいます。その中で、今回は地域包括支援センターが実践している活動のご紹介をします。

地域包括支援センターとは主に高齢者を対象とした相談窓口で、行政からの委託で運営しています。

(相談内容の一例)

- ・認知症の介護について (かかわり方やお金の管理方法等)
- ・介護が課題になっている経済的負担や介護離職による生活困窮などについて
- ・複雑な問題を抱える高齢者家族の介護について
- ・高齢者を対象とした詐欺被害や高齢者虐待について などなど…

これらの相談内容も少子化や核家族化など社会の変化から家族同士を支えあう力不足により、高齢者の介護が家族の問題の一つとして相談に来るケースが増えています。また、昨今の町会・自治会加入率の低下からもわかるように地域のつながりが希薄化することで高齢者の社会的孤立が大きな課題となっています。内閣府の調査では、60歳以上の9割以上が現在の地域に住み続ける予定と回答しており、今後高齢者が最期まで住み慣れた地域で生活するためには、まず高齢者が安心して暮らせる地域づくりが急務であると私達は考えています。

特に高齢化と共に問題となる認知症高齢者への対策についてと合わせながら、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」をキーワードに、地域包括支援センター「千葉県あんしんケアセンター小仲台」では地域の町会・自治会、民生委員などと協力して、その地域の特性に合わ

せた地域とのつながりを作る＝地域包括ケアシステムの構築を目指しています。

まず、認知症高齢者の理解を深める取り組みとして一例をご紹介します。

担当圏域内にある小学校と連携して認知症サポーター養成講座を開催し、その学区内にある町会と協力して小学生と地域住民と共に認知症SOS徘徊模擬訓練(声かけ訓練)を開催しました。当日は、認知症サポーター養成講座を受けた小学生や近隣の大学からのボランティアにも参加の声をかけ、地域住民と共にそれぞれのグループに分けて、指



小学校養成講座

定された地域にいる認知症高齢者役のスタッフ(主任介護支援専門員)を見つけ、話しかけ、集合場所に案内するという方法で行いました。

認知症高齢者役のスタッフも日頃から認知症高齢者に接し

ているため、特徴をつかんでおり、かなりリアルな演技で対応し、実際に即した訓練を行うことができました。

今回の取り組みを通して、普段からつながりのある町会・自治会だけではなく、小学校やその学校に通う学童、大学生、そして模擬訓練を開催した地域住民が、自分の地域で開催されていることを知ってもらうことで地域とのつながりを深めることができました。このつながりを大事にして、模擬訓練だけで留まらず、他の関係機関とも連携しながら地域づくりを続けていきます。

2025年には団塊の世代が75歳を迎え、少子高齢化はさらに進んでいきます。私達、地域包括支援センターはこれから先の社会状況の変化を見据え、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けられるように、その人の暮らしを包括的に支援ができる体制づくりに努め、その地域に合わせた地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。

千葉県あんしんケアセンター小仲台

認知症SOS徘徊模擬訓練
(声かけ訓練)

はぐくみの杜君津で 「地域の子育て家庭支援」をはじめています

児童相談所における虐待対応件数は、とどまることなく増え続けています。児童相談所は事後の対応に追われ、虐待の未然防止や養育に困難を抱えた子育て家庭への支援はまだまだ稚拙で大きな課題となっています。そのような状況の中、国からは「新しい養育ビジョン」が打ち出され、児童養護施設や乳児院のような社会的養護施設が、要保護児童の養育のみならず、その専門性を生かした地域子育て家庭支援を担っていくことが明示されました。地域の子育て家庭をサポートする拠点として、多くの機能を装備していくことが求められているのです。社会的養護施設に入居する子ども達は、親子分離し、本来育つべき地域を離れ施設生活を余儀なくされますが、課題を抱えた子育て家庭を社会がサポートする仕組みが充実すれば、親子分離・地域分離という最終手段を選択せずに、地域で家族生活を継続していくことを実現していくことができます。

児童養護施設はぐくみの杜君津は、小さな一歩ではありますが、「君津市子育て短期支援事業」の受託を令和元年からスタートさせました。さまざまな事情で、短期的に養育が困難になってしまった家庭のお子さんを、市の仲介を通して代替養育を行うという事業です。例えば2歳のお子さんがいるのだけれど、2人目の子どもを妊娠したが、父親がどうしても仕事を休むことができない平日に、お母さんが退院するまでの間、宿泊こみで預かります。中には子どもの養育に困

難を抱えている方もおり、レスパイト的に利用してもらうこともあります。君津市在住の家庭が対象になりますが、依頼ケースは決して少なくはなく、近隣の市町村からも受け入れの相談を受けることもあり、サポートを必要としている子育て家庭が膨大であることを強く感じています。

そこで、はぐくみの杜君津では、将来的に「児童家庭支援センター」の開設を検討しています。乳児院を併設している地域にある敷居の低い子育て相談機関であるセンター機能を持つことで、子ども期において最も重要かつ、親が最も悩みを抱えやすい3歳までの養育をサポートすることもできると考えています。乳児院赤ちゃんの家には看護師も配置されていますので、健康面におけるサポートも可能になりますし、里親支援専門相談員が配置されていることから、里親家庭との連携も充実することができます。

また、短期的な子ども預かりだけでなく、継続的な子ども預かりが必要な子育て家庭の支援を目的とした「子どもの居場所」事業の構想も思案中です。養育に困難を抱えている家庭の問題が、短期的解決は難しく長期的なサポートを必要とする場合に、養育のレスパイトを継続的に行う事業です。学校が終わってから、夜、寝るまでの間、毎日お子さんをお預かりし、適切な養育環境を保障する仕組みです。実践している方に話を聞くと、「子どもが、うちの事業所であるべき養育を学び、家に帰ると親にそれを伝える。例えば、ご飯を食べる前にはテーブルをきれいにするんだよ、と子が親に伝えたりする。課題を抱えた養育となってしまっている親へ、子が、正しい養育を逆輸入している。」とおっしゃっていました。虐待を防ぐ親支援が日本ではまだまだ未熟ですが、ひとつのやり方ではあると感じています。人材や場所の確保、足元であるはぐくみの杜君津や赤ちゃんの家の養育スキルの向上という課題はありながらも、これらの地域子育て家庭支援の実現に向けて検討を進めていきたいと考えています。

はぐくみの杜君津 施設長 高橋克己



子育て短期使用の部屋

誰にとってもはたらきやすい ユニバーサルな職場環境を目指して

生活クラブ風の村では、理念の一つである『私たちは、情報公開、説明責任を大切にするとともに、希望と働きがいもてる職場を、自らが参加してつくりまします』という方針のもとに、はたらきやすい職場づくりをこれまで進めてきました。

多様な働き方(職掌・勤務時間)、教育研修・人材育成、キャリア形成(キャリアエントリー制度)、人事制度(人事考課・賃金)、休暇制度・福利厚生などを働く職員の声・意見を反映させながらつくり、ブラッシュアップしてきました。

例えば、

- ・年に一度、今後のはたらき方についてアンケートを行わない人事異動やキャリア形成に生かすキャリアエントリー制度
 - ・定期的な個別面談の実施、職員アンケートの実施
 - ・正規職員は5年ごとに、契約職員は5年間に2回勤続表彰をする永年勤続表彰制度、リフレッシュ休暇
 - ・法令基準以上の年次有給休暇の付与
 - ・ハラスメント対策
- など、職員のモチベーションアップ、定着につながる制度が数多くできました。

また、有給休暇、病気休暇、産休・育休、などの休みの取りやすさや、短時間勤務中、子育て中、病気明けなどの業務・シフト配慮などは、風の村ならではのやさしい職場風土だと、多くの職員から声が寄せられています。

はたらきやすいユニバーサルな職場であることは、採用におけるアピールになりますし、離職防止にもつながります。さらにはご利用者支援の質の向上、個人のスキルアップ、安定経営にもつながります。

今年度からの第5次中期計画(2020～2022年)において、『ユニバーサルな職場づくりを進め、はたらきやすい職場を職員全員で作ります』という計画を立てました。第5次中期計画をもとに今年度は、以下のことを進めていきます。

- ・業務の見直しと改善をして、管理職も含めた残業時間の削減を目指します。
- ・休職した職員がスムーズに復職できるようにリワーク支援の仕組みをつくりまします。
- ・コロナ禍で応急的に導入したテレワークの目的と課題を整理し、積極的に活用していきます。
- ・子育て、親族の介護、心身の病気・ケガなど、様々なケースにおける働き方の希望・ニーズを調査まします。
- ・外国人労働者の受け入れ体制を確立し、定着と技能習得のために支援まします。
- ・パラリンピックを目指す方への支援の可能性を検討し、採用することを目標として募集をかけまします。
- ・ハラスメントの根絶に取り組み、ハラスメントの発生しない職場づくりを目指まします。

はたらきやすいユニバーサルな職場づくりに「終わり」はありません。風の村の理念、時代の流れ、職員のニーズに合った職場になっているかを常に念頭に置いて、職員一人ひとりにとって、はたらきやすさにつながる仕組みや制度を考えていく必要があります。

生活クラブ風の村では、全職員が生き生きと働くことができるように、今後も職員の声・意見を大切にしながらはたらきやすさを追求していきます。

人事部 課長 仙田哲也

令和2年7月豪雨支援の報告と御礼

皆様からの募金はご利用者と職員で648,599円(9月23日時点)となりました。

皆様の温かいご支援に御礼申し上げます。この募金は、被災された地域の生活再建に役立てるために、グリーンコープ(九州)、熊本県地域密着型サービス連絡会に寄付いたしました。

また職員からの募金は、人吉市の特別養護老人ホーム龍生園の支援にもつながっています。

大きな被害を伴う「異常気象」が毎年のように繰り返されています。生活クラブもwithコロナ時代の災害対策を進めてまいります。



わたしのおススメ本



広井良典著
東洋経済新聞社 2019

15年くらい前の事だと思う。当時、千葉大学の法経学部助教授であった広井良典さんの著書、「定常型社会—新しい「豊かさ」の構想」（2001年発行）を生活クラブ虹の街理事研修の課題図書として購読し、広井さんの講演も実現した。この中で、少子高齢化社会や経済不況の問題に対し提案されたのが、ゼロ成長の「定常型社会」だった。そして、今回2019年に発行された同著者による本著書との出会いは、認定NPO法人コミュニティケア街ねづとの書庫なのだが、題目と著者にひかれて手にとった。20年が経過したが、やはりコミュニテ

ィと街づくり・地域再生（第2章）が興味深い。私たちは安心システムと銘打ち、地域の人たちと共に共生型社会の実現と多様性を重視した地域の担い手づくりや居場所づくりに取り組んでいる。なぜ、この安心システムに取り組んでいくのかが、あるべき地域像のイメージが鮮明になることでさらに明確になっていく。少子高齢化社会を一つのチャンスと捉え、ポジティブ思考でプラスの価値をつくり持続可能な福祉社会をデザインすること！ この本から元気がもたらえた。

理事 新保ちい子

気持ちが明るくなる部屋作り 介護のフロが教えるちょっとした工夫 ひとりで抱え込まない

今年は新型コロナウイルス感染症が蔓延し、心身共に疲労が増していると思います。時には目を癒し、リラックスしてみませんか？

窓辺やテレビ脇など良く目につく場所にミニ観葉植物を飾ってみるのはいかがでしょうか？ 最近は100円均一店でも様々な種類の物が売られています。水やりが大変と思われる方は是非ジェルポリマー（これも100円均一）を土の代用に使用すると、頻回な水やりも肥料も必要ありません。観葉植物の土は洗い流し根っこのみにして、好みのグラスにジェルポリマーと少々水を注ぐだけ。ジェルポリマーが水分と栄養素を植物に与えると小さくなるので、再度水を注ぐと繰り返し使用可能です。水のやり過ぎ禁物、手間いらずです。



Withコロナ、植物から出る酸素を頂き、秋の夜長リラックスして免疫力アップしましょう。部屋の電気を消して、飾った植物をライトアップするのもおすすめです。 訪問看護ステーション稲毛 責任者 野老道代

前回、抱え込まず専門職に頼ることで自分の役割を見つけることをお勧めしました。今回は介護者の精神的な負担軽減の為に、仲間をつくることをお勧めします。「ケアラズカフェ」は介護をしている方が一息つける場所です。そこへ参加すること自体ハードルが高く負担に感じるかもしれませんが、機会があればぜひ参加してみてください。様々な方が様々な思いで介護と向き合っていることに気がかされると思います。介護自慢をしていた方が、失敗談や辛い思いを話し始めたり、自分のやり方を主張していた方が聞き手に徹したり。形は違ってもみんな同じように大変で、そこに自分の思いが重なれば、きっと話したいと思える仲間が見つかるはず。 常務理事 島田朋子

♪ おあずめしヒ

鮭と野菜たっぷりのおろし和え

材料（4人分）

- 甘塩鮭 4切れ（酒大さじ1、塩コショウ少々で下味を）
- 生シイタケ 4個（4～6つの串切り、軸は縦2～3つに裂く）
- エリンギ 1パック（2～3等分に切り、縦2～4つに切る）
- パプリカ 1/2個（へたと種を取り、他の材料と同じ大きさの乱切り）
- キュウリ 1本（縦じまに皮をむき、薄い輪切りに。分量外の塩をからめて少し置き、しんなりしたら水気を絞る）
- 大根おろし 2カップ（ザルに上げ、軽く汁気をきる）
- 塩小さじ 1～1.5、甘酢（酢50、砂糖大さじ1.5、塩少々）
- スダチまたはユズ 2～4個（横半分に切る）、サラダ油少々

実は白身魚の鮭はアスタキサンチンという色素で赤い身になっています。この色素は熱を加えても壊れにくく、抗酸化作用に有効でアンチエイジングに効果的です。



- ①鮭はグリルで焼いて粗熱が取れたら、骨を取りながら食べやすい大きさにほぐす。
- ②フライパンにサラダ油を熱し、シイタケ、エリンギ、パプリカを炒め合わせ、分量外の塩コショウを振る。
- ③大根おろしに塩、作り置き甘酢を混ぜ、野菜とキュウリを混ぜ合わせる。鮭をざっくり合わせて器に盛り分け、スダチ（またはユズ）を添える。お好みでしょうゆをかけて下さい。

食支援スーパーバイザー 木下利枝子

発行：生活クラブ風の村

千葉県佐倉市王子台1-28-8

ちばぎん白井ビル4階

TEL 043-309-5811 FAX 043-460-8844

<https://kazenomura.jp/>

E-mail info@kazenomura.jp

発行責任者：池田 徹



◆ご寄付 ありがとうございます

（2020年5月～7月）

長井良太/一般社団法人ママリングス/一般財団法人100万人のクラシックライブ代表理事
 養田秀策/特定非営利活動法人ディーシップスミニ/日本コカ・コーラ(株)守山工場/お話工房ばぶ
 曳田宏/篠原啓之/株マグマスジャパン 小泉正太/ACミランアカデミー千葉代表理事
 柏原英輝/平田康子/本納自治会長連合会/株フレーベル館 出版本部/特定非営利活動法人ライツオン・チルドレン/鳥居龍夫/宮川康子/大友麻里子/大塚雄作/Tokyo Bay Bible Fellowship(加治太郎)/田辺博夫/吉田美千留/君津地区更生保護女性会/神農英和/NPO法人はぐくみの社を支える会/田中 都/子ども館 ゆめのたまご 込山/高田俊和/株高田造園設計事務所 高田宏臣/村井 誠/堂本和子/小林なほ子 (順不同敬称略)